

2020年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100289	事業の開始年月日	平成27年3月1日
		指定年月日	平成27年3月1日
法人名	医療法人啓和会		
事業所名	グループホーム小倉		
所在地	( 212-0054 ) 川崎市幸区小倉3-9-20		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和2年12月12日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能、認知症通所介護との複合施設なので3施設合同の夏祭りや毎月の地域交流会(カラオケ大会、落語、フラダンス、ドッグセラピー)を行っていましたが今年はコロナ感染症の為中止となっております。なので地域密着型地域の相撲部屋の力士や幼稚園児が訪問してくださったり、オーナーから畑や庭で採れた野菜や果物を頂きジャムなどを作りおやつに出しています。地域ボランティアの方が毎月ハーモニカ演奏に来てくださったりと利用者様もいつも楽しみにしています。現在はコロナ感染症の影響で中止してありますが再開できるのを楽しみにしております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年1月11日	評価機関 評価決定日	令和3年4月4日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR「川崎」駅西口より「元住吉」行きバスで約15分、「小倉神社裏」バス停から2～3分の住宅街にあります。鉄筋3階建の複合型介護施設「ケアビレッジ小倉」の3階部分に1ユニット・9人の利用者が暮らしています。1階に小規模多機能ホーム小倉、2階に地域密着型デイサービス小倉が、同一法人により、併設されています。法人は川崎市川崎区を中心に地域に密着した医療施設や介護福祉施設を運営している医療法人です。

<優れている点>

法人が総合的医療機関のため、利用者の日常の健康管理や生活機能管理の体制は整えられています。また、緊急時の体制も整えられているため、利用者や家族、また、職員にとっても安心して支援することができます。本人の出来ること、出来ないこと、介助の必要性の度合いなどを医療部門、介護部門との連携で、本人や家族の目標に向けた個別対応の支援を行っています。また、今年度法人は、理学療法士や作業療法士によるリハビリ専門の施設も開設しています。利用者の個々のニーズに専門的な助言や支援も可能となっております。

<工夫点>

通常は地域交流に力を入れている事業所もコロナ感染防止のために多くの活動が中止になっています。散歩や外出が出来なくなり、利用者の身体機能や生活機能の低下防止に向け、リハビリ体操や午前・午後の廊下歩行、自転車漕ぎ、パズルなど、日々の支援に追加しています。また、外出に替わるテイクアウト支援も以前よりも増し、気分転換を多く取り入れています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム小倉
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者、職員は理念を共有し、困っている事、状況の変化などは常に話し合い、連絡ノートを活用し記録、申し送りを実践している。	理念を基に、一つひとつの支援が統一された方法で行われていることを常に振り返り、確認をしています。コロナ蔓延のため、事業所としての支援が十分行えない現況を職員間で話し合い、工夫を重ねながら理念に沿った支援に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のボランティアの方や保育園との繋がりを大切にしている。ハーモニカ演奏に来て頂いたり、保育園児が訪問して下さる。現在はコロナ感染症の為、中止している。	通常、同じ建物にデイサービス、小規模多機能ホーム、ケアセンターを併設する複合型介護サービス施設のため、地域住民との交流として毎月レクリエーションを開催していますが、コロナ禍のため、ボランティアや保育園児の交流も中止しています。それに替わる最善策を検討中です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会の行事に参加させて頂いたり、施設の行事に参加して頂き、地域との繋がりを大切にしている。現在は、コロナ感染症の為中止している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会会長、民生員、地域包括、利用者家族の方々に参加して頂き入居者様の状況や施設の状況や困り事等を話し合い意見交換や協力できる所は協力して頂いています。現在はコロナ感染症の為中止していますが、利用者様の状況報告は郵送にて報告しています。	通常は、2ヶ月に1回、町内会々長、民生員、地域包括、利用者家族の参加で事業所の現況報告や地域情報などを話し合い、意見や協力を得ています。コロナ禍の為、話し合いの場は実施されていませんが、近況は郵送で報告しています。、今後はリモート会議で行うことも検討しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に高齢福祉課の方や地域包括の方にも参加して頂き施設の状況を理解頂き意見交換を行っております。	「地域に密着した心温まるコミュニティ活動」を基本としている事業所は、地域交流の場を積極的に設けています。区の高齢福祉課や地域包括支援センターの担当者と交流を図り、地域のニーズに沿えるよう協同関係を築いています。現在は、コロナ禍のため、電話や郵送で連絡をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	個別の身体拘束は行っていない。玄関の施錠については、階段が近い事もあり、リスクマネジメントの一環で同意書のご記入、ご捺印を頂いています。身体拘束研修にも参加できる職員は参加しています。	身体拘束や虐待（身体的・心理的な虐待も含）のマニュアルを整備し、身体拘束や虐待をしない支援について事業者内で動画による研修会参加や学習会を行っています。身体拘束とされる具体的な行為を職員全員が正しく理解し、日々の支援を行っています。現在、コロナ禍のため、外部研修の参加は、中止しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関わる研修に参加し、身体的虐待だけではなく心理的虐待についても学びを得ました。「ちょっと待って」等は言いがちですが、なるべく言わない様に努力しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前ご利用者様に成年後見人制度を利用されている方がおりましたので、その時仕事を通じて学びました。現在は、利用されている方はおりませんが学ぶ機会があれば研修等に参加したいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書や契約内容については丁寧な説明と合意形成を心がけています。書面ごとに不明な点がないかご利用者、ご家族にご確認作業を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年賀状をご家族に発送したり、施設来訪時にご利用者様の近況をお話しています。	毎月の手紙や電話で利用者の様子、相談や意見について話をしています。必要に応じて外部に相談ができる事も伝えています。現在、コロナ禍のため家族の面会は厳しい状況ですが、来訪時には必ず意見や要望を聞いています。意見は事業所として出来る範囲で反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送り、連絡ノート、数人でのミニカンファレンスを開催しています。その際に職員の意見を聞く機会を設けています。	職員の意見は、会議で採り上げ、具体的な改善策を検討し、事業所の運営に反映しています。夜間のパット交換時の失禁について、職員間での意見交換の結果、吸収量の多いパットに変更し、失禁が改善された例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回人事考課を実施しています。統括責任者が職員会議に参加しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修や外部研修に参加できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	毎月1回、グループホーム管理者会議を開催して事業所間の共有に努めています。又、管理者同士の個々の悩みを打明けられる様な関係作りに努めています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	その人の出来る事出来ない事を把握しています。又、ご本人の希望を聴く様に心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご本人のこれからの暮らしに対して、ご家族に希望を聴く様にしています。又、今後、ご本人の状態が良くなった場合は自宅復帰を希望されるか等を確認するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族の要望、ご本人の要望を聞きより良い支援が出来るようにしたいと努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者様が出来る事、お手伝いなどを一緒にやれるようにしている。仕事の役割分担をできる方に任せるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	クリスマス会は、居室担当者がご利用者様へのプレゼントを買い、簡単ではありますがケーキとお茶でクリスマス会を行っております。プレゼントは皆さん喜ばれています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お盆やお彼岸にはご家族とお墓参りにご家族と外出され、外食して来たりをされています。現在はコロナ感染症の影響で中止しております。	通常は、家族や友人の来訪と外出などありますが、コロナ禍により、面会や外出は中止しています。状況により、家族との面会は、短時間のガラス越しで互いの顔を見て安心してもらえるよう支援をしています。コロナ感染を極力抑えた上での関係継続に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席を決める時は、気の合う方同士が近くになる様に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所されたご利用者さまのご家族と連絡を取りその後の状況を尋ねたりしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	趣味など出来る範囲で行ってもらっている。新聞を購読されている方もおられ朝刊を読んで気になる記事はスクラップされている。新聞の広告で読みたい本があると購入を頼まれるのでその時は購入して差し上げている。	日々の会話や様子から本人の思いや意向を把握し、工夫を凝らし、思いに沿える支援に努めています。定期的に来訪していた美容師もコロナ禍で中止しているため、代わりに器用な職員がヘアカットをしています。利用者からはサッパリした気分を味わえたという好評を得ています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様の生活歴や思い出話等季節や行事などでお話を聞いたりして把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの生活のリズムの違い、たとえば朝が苦手な方、夕方になると不穏な方などを把握し一人ひとりに合わせ対応が出来るよう話し合い工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様、一人ひとりに合わせた短期、長期目標に合わせた介護計画を立て職員で共有し必要な支援が行えるようにミーティングで話し合いを行い一人ひとりに合わせた支援を行っている。	本人・家族の思いや希望を明確にし、短期的・長期的な目標計画を立てています。計画が的確に必要な支援であるように、関係者らと意見交換しながら柔軟に変更し、現状に即した支援計画にしています。コロナ禍での運動不足解消に、廊下歩行や自転車こぎで身体機能の維持を図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録や連絡ノート、往診ノートなどになるべく分かりやすく記入しています。申し送りの伝達事項も重要だともいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの家族の状況は異なる為、ご家族、奥様、ご主人様、娘様、息子様、等それぞれの状況に合わせて柔軟な支援をする様心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近くのお寺、神社等があり、週に一度（土・日）には散歩に出かけるようにしています。時にはお寺の住職さんとお話しをする機会もあります。近くのスーパーへも買い物に行きます。現在はコロナ感染症の影響で中止しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	医療連携先の野末整形外科歯科内科と24時間体制で報告、相談が可能となっています。	利用者全員が協力医療機関の内科医の往診を月2回受診しており、必要に応じて歯科の往診も受けられます。また、看護師が毎週1回来訪し、利用者の健康状態をチェックしています。往診報告書は利用者ごとにファイルされ、全職員で情報共有しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とはオンコールで対応しています。週1回訪問看護師が来訪し往診時対応の看護師も往診時に同行しているので常に連携が取れています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、職員がお見舞いに行き、情報を共有し退院時も病院の看護師との連携を取り退院後のケアに対応しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りに関する説明を行っております。ご本人の意思確認やご家族と話合う機会を持ち等施設での提供可能な医療サービスの上限を説明しています。	「重度化した場合に関する指針」を定め、契約時に本人と家族に説明しています。指針では、看取り介護の具体的な支援内容や家族への配慮、職員の対応などを定めています。協力医療機関とは365日24時間の連絡体制を確保し、緊急時の対応に備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルを配布し、それを活用するよう指導しております。24時間オンコール、119番通報の仕方を説明しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所主催による避難訓練を実施し反省と改善を繰り返す様になっています。災害時の物品の在庫確認や賞味期限の確認等も定期的に行っております。	今年度はコロナの影響で避難訓練は実施していません。昨年度の訓練で歩行困難者に対する避難支援の方法について課題が明らかになったため、訓練マニュアルなどの見直しを行う予定です。備蓄は水と食料4日分を建物2階の倉庫に保管しています。	歩行困難者の避難を迅速かつ安全に行うためのマニュアルや器具の整備とともに訓練の再開が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重しプライバシーを損なわない声掛け対応をしている。	利用者を目上の人として敬う姿勢で声掛けや会話をする事、常に自分の家族をこの施設に入居させたいと思える対応を心がけるよう、職員に指導しています。個人情報 は鍵のかかるキャビネットに保管し、持ち出さないようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	面談を通し入居者様の希望を見出す様に心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりのその日の体調を把握し今、やりたい事を伺いご本人のやりたいことを優先して一日を過ごして頂く様に支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月から3か月に一回訪問カットを利用しております。現在はコロナ感染症の影響で中止しており、施設スタッフがカットをしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の出来ることは手伝って頂き食事前の口腔体操を行い昼食は職員も同じ物を一緒に食べて食事を楽しんでいる。現在はコロナ感染症の影響で一緒に食べる事はしていない。	専門業者から食材を調達していますが、メニューの中に利用者の苦手なものがあれば変更するようこまめに依頼しています。3ヶ月に1回は海鮮丼のテイクアウトなどで外食気分を味わえるようにしています。また、誕生日やクリスマスではケーキを提供しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調をや食事の接種量を把握し食事量や水分量の制限、食事の形態を利用者様に合わせて支援している。毎日の食事量、水分量を記録として残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄、夕食後のポリデントによる洗浄や一人ひとりのケア後の確認をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用し一人ひとりの排泄のリズムを把握して誘導、介助を行っています。状況が変わった時は話し合いその人にあった支援をこなっております。	個々の利用者の特徴を踏まえ、できるだけトイレで排泄できるように支援しています。意思疎通が難しい利用者には毎日同じ時間に誘導を行い、トイレで排泄できる回数が増えてきています。また、医師と相談して薬や服薬時間を調節し、排便が安定した人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し水分量のチェックを毎日、腸の体操を行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回の入浴を行いご自分で出来る所はご自分で洗って頂き出来ない所はの介助を行い入浴を楽しんで頂いております。季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯なども楽しんで頂いております。	基本的に平日の午前中に全員が入浴するスケジュールを組んでおり、週3回の入浴が可能です。シャワーや湯舟の温度は、利用者の希望を踏まえて設定しています。入浴に対して拒否反応のある時は無理強いせず、時間をおいて再度声掛けするようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調を把握しご利用者様に合わせ臥床対応を行っております。昼食後も利用者様に合わせ昼寝時間を設けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの処方箋を個人ファイルで管理し職員が薬の内容を把握しております。不明な点はその都度看護師や薬剤師に確認しています。服薬のダブルチェックを実施しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、えぶろんたたみ、テーブル拭き等ご利用者様に出来る事を楽しみながら行って頂き季節に果物でジャム作りやケーキ、ゼリー等を作って提供しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族と外食を楽しんでもらったり、近所の公園や神社などに散歩に出かけたりしています。オーナーの自宅の桜の花見に招待してもらったりと地元の方々との関りがあります。現在はコロナ感染症の影響で行っていません。	現在はコロナの影響で外出を中止しています。コロナ収束後は週4日の近隣への散歩のほか、買い物や町内会の祭りへの職員の同行、家族との外食や墓参りなどを復活させる予定です。廊下での歩行練習を午前、午後に行い、歩行機能の維持に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設で管理しておりますが欲しものがある時は職員と買い物に行き買ってきます。現在はコロナ感染症の影響で職員が購入したりネットで購入しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自分で手紙が書ける方ははがきや年賀状、手紙のやり取りをご家族やご友人とされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアや廊下は季節の花を飾ったり季節の折り紙や行事にちなんだ飾りつけをしています。	共用空間は毎日清掃し、温度、湿度の管理と換気を行っています。コロナ対策でテーブルや手すりの消毒を行うほか、職員と一緒にの食事は中止しています。クリスマスツリーなど季節の装飾は利用者と共に行い、塗り絵や折り紙など利用者の作品も飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席は気の合う人と並んで座って頂き会話を楽しんだりテレビを楽しんだり出来るように配慮しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はご家族と話し合いご自分の好きな物や愛着のある物を置いて頂き居心地の良い空間にして頂いております。	エアコンとクローゼットが備え付けで、ベッドも事業所が提供しています。火器以外は自由に持ち込めるため、写真やテーブル、椅子などが配置され、利用者の好みにあった空間になっています。掃除は、週3回職員が行いますが、居室の換気は毎日実施しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入り口に名札を貼りトイレには表示を分かりからなくならない様に配慮しております。車椅子の方が自走しやすいように杖の方は手すりと共に共存できる様に工夫しております。		

2020年度

事業所名 グループホーム小倉

作成日： 2021 年 4 月 16 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	51	ご利用者様のご家族や友人への手紙をご自身で書いて送ることが実施出来ていない。	ご利用者様をご自身でご家族や友人への手紙やはがきを書き郵送できるように支援する。	レクの時間等を利用してハガキを書いたり手紙を書いたりし、ご自分で書けないご利用者様はスタッフがご利用者様の作品などを一言コメントを書いて郵送できるように支援する。	12ヶ月
2	19	コロナ禍や日常においてご家族への近況報告等現在のご家族への報告等施設からの手紙や写真等出来ていない。	行事や誕生日会等写真やお手紙をスタッフから郵送できるようにする。	居室担当スタッフからコメントを入れて写真などお手紙を作成し郵送できるように取り組む。	12
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月